

子ども向け生涯大学システム（県民カレッジ）の取組状況調査について

	青森県	佐賀県
開始年度	平成 18 年度（平成 18 年 7 月）	平成 20 年度
昨年度の受講者数	1,947 人	不明 ※開始から平成 25 年度末まで、入学者数 1,464 人（平成 24 年度末から 286 人増） ※受講者という把握は行っておらず、入学者という形での統計である。
昨年度の称号授与した授与者数	80 人 〔 100 単位・学士賞 200 単位・修士賞 300 単位・博士賞 500 単位・学長賞 〕	25 単位（ジュニア マナビイ賞） 26 人 50 単位（ジュニア かささぎ賞） 23 人 100 単位（ジュニア 学士） 7 人 150 単位（ジュニア 修士） 1 人 200 単位（ジュニア 博士） 0 人
課題やこれまでの変遷等	<p>高校生未満を対象とした子どもカレッジは、平成 18 年度に開始され、今年で 8 年目となる。</p> <p>入学者は、自然減や少子化の影響等もあり、緩やかな減少傾向にあったが、子ども向けの講座数を増やす等の取組により、昨年度は入学者数の増加が見られた。</p> <p>子どもカレッジコースの学生は、中学卒業後は教養学習コースの学生へと移行するが、中学生の新規入学者数が少なく、認定申請の割合も低くなっていることから、全ての年代を通じて学びを継続していけるような、特に中学・高校生を対象にした学習機会の提供が課題となっている。</p>	<p>市町担当職員や公民館職員には、事業趣旨等の理解に温度差がある。広報に努めているが、放課後子ども教室等の体験活動は、県民カレッジの参加講座にはならないと考え、講座登録をせず、参加呼びかけの対象にもしていなかったという状況がある。また、市町の担当者に事業内容を理解してもらっても、人事異動で引き継がれなかったということもある。広報にあたっては、学校へ様々な事業案内が入るため、ときとして協力を得られない場合がある。</p> <p>生涯学習センターの県民カレッジ担当者に聴取したところ、上記のような課題があるとの意見であった。ただし、参加している子どもたちは、大人以上にシールがたまるのを楽しみに参加している状況もある。</p> <p>子ども向け県民カレッジは、子どものうちから「自ら学ぶ」という習慣づくりのためには有効な手立てであり、世代を超えた生涯学習の気運醸成のために対象に加えた経緯がある。</p>